

成寿山善光寺開山忌報恩供養法要香語

岩本昭典老師

正当示寂今年に値う

雪は白く風は寒し二月の天

讃仰す開山振起の基

梅花一点寺辺を彩る

山門恭しく惟みるに、平成六年が佛教紀元二千五百六拾年の如月五日、当寺開山棟庵白純大和尚示寂之辰に相い値う。敬しんで香華灯燭果茶湯を備え、謹んで真前に就いで隣邦諸山の老貴宿随喜の清衆を屈請して、参同契宝鏡三昧を遠誦し風誦す。鳩るところの殊勲は、品位を増崇し、以って上慈恩に報い上つるものなり。即ち山僧辱知道交之因みに、開山純老古佛の法愛享受すること並々ならず。

独格の風姿は未だ眼を去らずして感は一入なるものあり。爰に旃檀吉祥の蘭柴一片を拈せしむ。伏して冀がわくは、真慈容納せられんことを。正当恁麼の時応供不般の端的如何

付宣せん。

嘆

千江水あり千江の月  
万里雲無し万里の天

慈容納

成寿山善光寺開山忌報恩供養法要香語

焼香比丘 吉祥昭典敬識



# 善光寺北堂刀自安徳院殿嘉祥如慶禪尼

## 大祥三回忌供養法要香語

岩 本 昭 典 老 師

嘉祥如慶功昌々たり。仰ぎ見る孫枝子弟香ばしきなり。滅後三年春は寂然たり。梅花一点轉た芬芳たり。

恭しく惟みれば、山門今歳今月此の時、当寺開山榎庵白純大和尚示寂の辰の因に、当山北堂安徳院殿嘉祥如慶禪尼の大祥三回忌の忌辰に相い値うて、禪尼に資薦し報地を莊嚴す。想心に、禪尼は、生を長野県須坂之地に享けて、貞鑑垂範玉の如く、学を女子美術学校に修めて、明鏡の婦徳は光り有り。白純老師の好伴侶として、親しく内助の功勞を積み、寺庭の家政を裁く。次いで曰く。光真寺の護寺並びに那須寺桐ヶ谷寺善光寺開創しその貢獻に資す。米国の佛真寺不二寺の開基としての榮は、安徳の譽は尊きなり。深く祖道に帰依し、信念は須臾も忘ることなし。陰たる徳の福報は、梅花の心操淨うして塵なし。積善の余慶は、庭際の白梅春陽に傾く。

更に惟みるに。万物枯榮を現じ、能く諸行の無常を了じて、人の世の曲直を弁え涅槃の

道場に居登す。刹々本有、家郷黄鳥の樹林むとし 齊く法を説く。事々無礙法界、山河大地露堂々。

正当即今 大祥三回忌に資薦し、感応道交底消息如何が挙揚せん。

唳

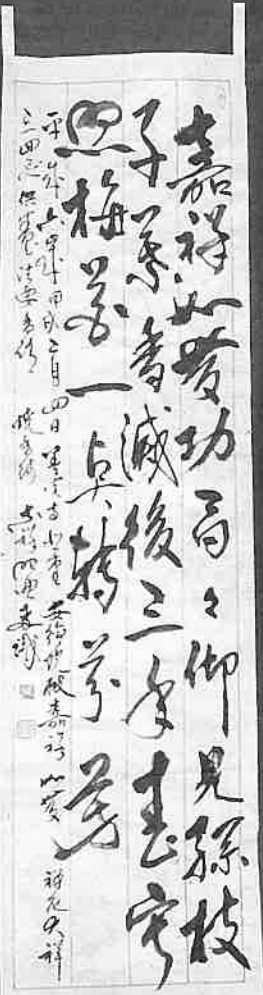
安徳安徳喚無事

小玉は知らず檀郎を認める。

平成六甲戌年二月五日

善光寺北堂刀自安徳院殿嘉祥如慶禅尼大祥三回忌供養法要香語

吉祥昭典識す



嘉祥如慶功高々仰見孫枝  
子孫系一滅後三々玉堂  
思梅系一卓轉系一  
二年六月廿五日  
善光寺北堂刀自  
安徳院殿嘉祥如慶  
禅尼大祥三回忌  
供養法要香語  
祝花久祥

